富三地区 だより

我々の防災活動
経緯と課題

防災特別号

2017年 9月
（平成29年）

編集:発行　富岡第三地区（連合町内会 ／社会福祉協議会／民生児童委員協議会）
（富岡西部町内会・富岡北部町内会・富岡桜ヶ丘町内会・ひかりが丘町内会・西富岡町内会）

富三地区計画から

富三地区では、誰もが住みなれた地域で安心して暮らせる「まち」をつくります

地震は事前情報なしに突然発生します。高齢・障がい等の理由による災害時援護を必要とする方の増加に対応し、金沢区では町内会単位の手あげ方式による「要援護者名簿」の提供をしています。第三地区の５町内会は安否確認、助け合いの組織を結成し、町内会ごとに活動をすすめています。

数年前区役所から「要援護者名簿」を受け取りましたが、正直、どのように組織を作り、何を取り決め、活動は何をしたらよいのか、どの町内会も模索・検討し、組織を編成しました。活動を開始した今も課題は山積みですが、発災まで先の見えないこの活動を、若い世代の参加・協力につなげていく必要性を感じながら活動を続けています。

取り組み事例①　安否確認訓練の実施

町内会により方法は様々ですが、支援者（援護者）を募り、担当地区ごとの安否確認訓練を実施しています。要援護者と支援者の顔がつながるとともに、通常の見守りにもなっています。名簿記載者以外での援護を希望する方の把握にも努めて、いざという時に備えていますが、一番大切なのは、日頃からとなり近所がいつでも助け合える関係にあることであり、それは「減災」への第一歩なのだと思います。

西富岡災害援護隊員　安否確認訓練

援護隊員の日常訪問活動

避難誘導訓練

消火器取り扱い訓練

炊き出し訓練　カレーライス・豚汁

取り組み事例②　防災訓練の実施

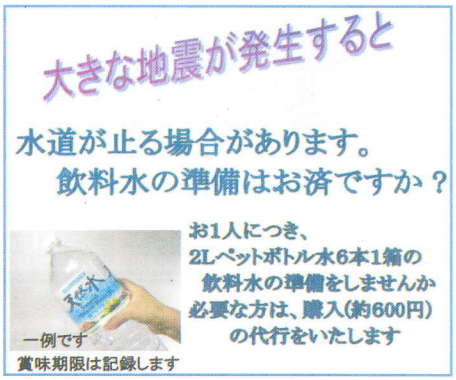
９月は防災訓練の報道が目につきます。炊き出し・消火・ＡＥＤ・起震車や煙体験等々、町内会では訓練への参加を呼びかけています。どれも一度は体験しておくことが大切です。ひとごとではなく、大きな地震は必ず起こります。そして、要援護者・支援者の区別なく、全員が被災者になるのです。その時には、運良く負傷せずに済んだ人が声をあげて、みんなで助け合わなければなりません。防災訓練の呼びかけにはすすんで参加しておきましょう。

取り組み事例③　防災物品保有の推奨

これは全ての町内会が実施している訳ではありませんが、西富岡町内会では「水」「災害用トイレ」などの物品の購入を呼びかけ、購入代行を行っています。また、年一回の防災訓練の日には、公園に売り場を設け、業者を呼んで直接販売をお願いしています。この販売は会員からの「町内会で売ってくれないかなぁ」という要望により実施に至りました。物品販売との相乗効果で、今年の防災訓練には町内会員３００人（避難者カード記入により確認）の参加があり、消火訓練のほか、カレー・豚汁が各２２０食提供されました。

トイレ・水・食料等の災害物品の準備は大丈夫ですか？　あなたの心がけ次第で「減災」は可能になります。

飲料水
購入代行



地震発生後、「断水」
簡易トイレセットの準備が必要として
希望するお宅へ、防災部長と災害援護隊員が協力して、販売配布をしました

簡易トイレ
購入斡旋

公園で業者による防災物品の販売会

販売会で人気の一つが備蓄食料品

今後の課題　支援者の世代交代と組織の継続

いつ起こるかわからない大地震に対する地域の最大の課題は、「支援者の世代交代と組織の継続」であると考えられます。区役所が「要援護者名簿」の提供を始めるより前に、災害時の要援護者対策を開始した西富岡町内会では、すでに援護隊員の高齢化問題が表面化しています。他町内会も遠い未来ではありません。

また、「要援護者への声かけだけで良いのか？」という疑問もあります。ひかりが丘町内会では、組織編成の段階で、安否確認活動の対象を「町内全戸」と決め、４６班の班長を「声かけチーム」として情報を集める体制を作りました。

最終的には、どの町内会も全ての世帯の安否確認をする心づもりが必要ですが、本当の大地震が起こった時、組織がどこまで機能するのかは「その時」までナゾです。

誰もが住みなれた地域で安心して暮らすことが出来るために

しかし、平常時から声かけや訓練を繰り返すことで、大地震に対する心構えを新たにし、地震発生後は「被災した全ての人」が声をかけあい、「安否確認・救出・救護・避難誘導等や長い避難生活」が、助け合いの精神で行えるように協力する必要があります。

「その時」は必ず来ます。日頃からのとなり近所のつながりや町内会活動の大切さを認識して、地域の活動に参加・協力いただけたとき、きっとそれは「減災」への可能性をひろげることでしょう。

組織の継続にご理解とご協力をお願いいたします。